



令和 7 年 9 月 12 日
内閣府政策統括官（防災担当）

令和 7 年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者決定について

標記について、別添のとおり受賞者が決定しましたのでお知らせします。

※ 防災功労者内閣総理大臣表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和 57 年 5 月 11 日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として表彰するものです。

【本件問合せ先】

内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（総括担当）付 唐戸、木村、中村

電話：03-3593-2844（直）FAX：03-3503-5690

令和7年 防災功労者 内閣総理大臣表彰 受賞者名簿

〔災害現場での顕著な防災活動〕

(令和5年9月台風13号による豪雨災害)

いわき市消防団

(福島県)

(令和5年12月1日からの林野火災)

豊丘村消防団

(長野県)

(令和6年1月1日の能登半島地震)

公益社団法人 日本青年会議所

(東京都)

内灘町消防団

(石川県)

穴水町消防団

(石川県)

羽咋市消防団

(石川県)

中能登町消防団

(石川県)

津幡町消防団

(石川県)

かほく市消防団

(石川県)

志賀町消防団

(石川県)

宝達志水町消防団

(石川県)

七尾市消防団

(石川県)

公益社団法人日本医師会

(東京都)

公益社団法人全日本病院協会 災害医療支援チームAMAT

(東京都)

内閣府沖縄総合事務局 緊急災害対策派遣隊

(沖縄県)

国立研究開発法人建築研究所 緊急災害対策派遣隊

(茨城県)

国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所

(神奈川県)

緊急災害対策派遣隊

陸災部隊・同支援部隊

(兵庫県)

空災部隊・同支援部隊

(埼玉県)

海災部隊・同支援部隊

(京都府)

(令和6年1月1日能登半島地震、令和6年9月豪雨災害)

石川県警察本部

(石川県)

珠洲市消防団

(石川県)

能登町消防団

(石川県)

輪島市消防団

(石川県)

国立研究開発法人土木研究所 緊急災害対策派遣隊

(茨城県)

(令和6年1月1日能登半島地震、令和6年7月・9月大雨)	
国土交通省緊急災害対策派遣隊	(東京都)
(令和6年4月22日からの林野火災)	
高畠町消防団	(山形県)
(令和6年5月4日からの林野火災)	
南陽市消防団	(山形県)
(令和6年7月25日からの大雨)	
由利本荘市消防団	(秋田県)
戸沢村消防団	(山形県)
(令和6年台風10号)	
藤枝市消防団	(静岡県)
屋久島町消防団	(鹿児島県)
(令和6年10月11日からのリサイクル資材集積場火災)	
各務原市消防団	(岐阜県)
(令和7年2月26日からの林野火災)	
大船渡市消防団	(岩手県)
(令和7年3月23日からの林野火災)	
岡山市消防団	(岡山県)
玉野市消防団	(岡山県)
今治市消防団	(愛媛県)
西条市消防団	(愛媛県)
松山市消防団	(愛媛県)

〔防災思想の普及〕

○ 個人

大道田自主防災会 会長

井 上 重 人

(広島県)

株式会社 テレビ長崎 報道部 記者

槌 田 禎 子

(長崎県)

北海道室蘭市立蘭北小学校 事務職員

阿 部 秀 彦

(北海道)

株式会社シンク 代表取締役

篠 田 大 輔

(埼玉県)

高知県土佐市教育研究所 所長

吉 門 直 子

(高知県)

○ 団 体

槿木団地自主防災会

(愛知県)

大治南小学校

(愛知県)

くすばし少年消防クラブ

(福岡県)

かしま防災サポーターズクラブ

(佐賀県)

内郷女性消防クラブ

(福島県)

キャッセンエリアプラットホーム

(岩手県)

宝塚市立宝塚文化創造館

(兵庫県)

福崎町立田原小学校

(兵庫県)

〔防災体制の整備〕

○ 個人

東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター長・教授	
関 谷 直 也	(新潟県)
愛知医科大学病院 救急診療部 教授・部長	
加 納 秀 記	(愛知県)
鳥取大学大学院工学研究科 教授	
香 川 敬 生	(鳥取県)
徳島県自主防災組織連絡会 副会長	
阿 部 恵	(徳島県)
国立研究開発法人防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域 研究領域長	
青 井 真	(茨城県)
名古屋大学 教授	
坪 木 和 久	(愛知県)
国立研究開発法人防災科学技術研究所	
極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センター センター長	
中 村 一 樹	(新潟県)
東京大学地震研究所 所長	
古 村 孝 志	(東京都)
一般財団法人 砂防・地すべり技術センター 研究顧問	
藤 田 正 治	(京都府)

○ 団体

社会福祉法人 榛東村社会福祉協議会	(群馬県)
千葉県災害対策コーディネーター茂原	(千葉県)
小林ハイツ自主防災防犯会	(奈良県)
王寺町防災士ネットワーク	(奈良県)
木本地区防災会	(和歌山県)
一宮・下町地区自主防災会連合会	(徳島県)
チーム「つなくる」	(北海道)
株式会社エフエム徳島	(徳島県)
つつじが丘北防災協議会	(東京都)
ALSOK株式会社横浜支社	(神奈川県)
早稲田学区自主防災連絡協議会	(広島県)

以上 72件(個人14件、団体58件)

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	いわきしょうぼうだん いわき市消防団
所 在 地	福島県いわき市
代 表 者 (団体での職名)	団長 かとう よしかつ 加藤 義勝
功 績 の 概 要	いわき市消防団は、令和5年9月8日から翌9日にかけて発生した台風第13号に伴う大雨では、局地的な豪雨をもたらす線状降水帯が県内で初めて発生し、市内では、110mmの記録的短時間大雨情報が発表されるなど、24時間における総雨量は、9月の平年の月降水量に匹敵する大雨となった。 消防団員の活動にあつては、全体の約4割に及ぶ延べ1,066名が出動し、河川洪水や内水により消防団詰所や消防車両、自宅等が被災する中、市内全域で避難広報及び避難誘導、土砂災害警戒区域の巡視、浸水地域における排水作業等を行った。 さらに、9月16～18日及び24日の計4日間、延べ384名で、甚大な浸水被害となった地区の路上等に存置された災害廃棄物を消防団車両で仮置場へ搬送する支援活動を実施した。この活動が被災者の生活の早期再建に繋がり、地域の多くの方々から感謝の言葉をいただいた。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	とよおかむらしょうぼうだん 豊丘村消防団
所 在 地	長野県下伊那郡豊丘村
代 表 者 (団体での職名)	団長 とおやま かつや 遠山 克也
功 績 の 概 要	豊丘村消防団は、令和5年12月1日（金）5時30分に飯田広域消防本部から豊丘村消防団へ出動要請があった。 豊丘村消防団では消防団の全ての分団に、防災無線を使って出動を指示し、平日早朝にも関わらず42名が参集した。村では5時45分に対策本部を設置し、情報収集にあたり延焼範囲を調査した。500m付近に集落があり、住家への延焼を防ぐため、団員は2班にわかれ斜面の上下から背負式水のうを利用し、7時00分に消火活動を開始した。 急斜面の消火活動で足場も悪く、困難を要したが、広範にわたる火災であり、当日中の鎮火には至らなかった。 1日目は16時30分に活動終了し、16名が夜間警戒にあたったことで延焼拡大を防いだ。 2日目（12月2日）は、6時40分から16時30分まで37名による消火活動を実施した。延焼範囲の拡大は防げていたが、堆積した落ち葉に火が残り、残火処理に苦慮した。残火の範囲も広く、2日目も鎮火には至らなかった。2日目も16名が夜警にあたったことで延焼拡大を防いだ。 3日目（12月3日）は、7時40分から消火活動を再開し、10時20分鎮圧、10時48分鎮火した。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	こうえきしゃだんほうじん にほんせいねんかいぎしょ 公益社団法人 日本青年会議所
所 在 地	東京都千代田区
代 表 者 (団体での職名)	会頭 とぐち まさひろ 外口 真大
功 績 の 概 要	災害大国と呼ばれる日本において災害は何処でも起こりうる環境であり、近年では同時多発的に発生がすることから、地元で災害支援ができるための備えが必要であり、全国に各地会員会議所を有し、民間による支援力やネットワークの高さから、災害時には「人材支援」・「物資支援」・「支援金」による支援の実績があり青年会議所の存在感は高まっています。 また、日頃から社会福祉協議会（以下、社協）とも連携し、社協の災害ボランティアセンターへの理解や支援・協力の実績があり、令和3年には日本青年会議所と全社協が災害時の協定締結をし、さらに各地の青年会議所と社協が災害時の協定締結を推進するなど、平時からの災害支援にも協力的である。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	うちなだまちしょうぼうだん 内灘町消防団
所 在 地	石川県河北郡内灘町
代 表 者 (団体での職名)	団長 なかむら まこと 中村 睦
功 績 の 概 要	内灘町消防団は、令和6年能登半島地震にて管轄地域に津波警報が発表されているなか、身の危険を顧みず要支援者の高台への救出、住民の避難誘導や安否確認、避難所の運営補助、水利の使用可否の確認など被害の軽減や続発する災害への備えに多大な貢献をした。 また、被災区域の交通整理、酪農団地の乳牛の飲料水運搬、被災家屋（危険判定建物）からの家財搬出等、住民の幅広いニーズに応え、地域密着型の消防団として貢献した。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	あなみずまちしょうぼうだん 穴水町消防団
所 在 地	石川県鳳珠郡穴水町
代 表 者 (団体での職名)	団長 はまで やすじ 濱出 泰治
功 績 の 概 要	穴水町消防団は、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の影響による被害に際し、延べ514名が出動し、道路が陥没・隆起した悪路での状況の下、昼夜にわたり道路寸断箇所の土砂や倒木の除去作業を行うとともに、住民の避難誘導・避難所設営、行方不明搜索、耐震性貯水槽や消火栓の水利点検など消防団として尽力する。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	はくいししょうぼうだん 羽咋市消防団
所 在 地	石川県羽咋市
代 表 者 (団体での職名)	団長 ながうら 長浦 かずひろ 和弘
功 績 の 概 要	羽咋市消防団は、令和6年能登半島地震において、発災直後から全分団が参集し、大津波警報のため、海岸地域を中心に避難誘導を実施した。夕方には、倒壊家屋で行方不明者の通報を受け、救助活動にあたり、発見し、救急搬送につなげた。また、市内全域断水のため、避難所を中心に応急給水活動を実施した。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	なかのとまちしょうぼうだん 中能登町消防団
所 在 地	石川県七尾市
代 表 者 (団体での職名)	団長 たにぐち ひでお 谷口 英夫
功 績 の 概 要	中能登町消防団は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に際し、町内の被害状況調査を行い、その後断水が続く町内の住民に対し6日間にわたり給水活動を行う。中能登町消防団員、延べ189名（重複を含む）が活動を行う。 消防団員自らも被災する中、地域住民を第一に考え、真冬の寒空の中、早朝から、夜遅くまで活動を行い、住民の生活を支え孤立をさせなかった功績は多大なるものである。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	つばたまちしょうぼうだん 津幡町消防団
所 在 地	石川県河北郡津幡町
代 表 者 (団体での職名)	団長 なかがわ かずや 中川 和也
功 績 の 概 要	津幡町消防団は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、大津波警報により高台に避難してきた住民の誘導を実施する。また、道路崩落による地中ガス管破損による燃焼事故での消火活動及び警戒配備活動の実施。発災当初から管轄区域の道路及び水利状況、倒壊建物の状況を確認し安否確認不明者の捜索を行う。その後も、避難所や断水地域への物資搬送を実施するなど1月1日～7日まで延べ284名の消防団員が活動する。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	かほくししょうぼうだん かほく市消防団
所 在 地	石川県かほく市
代 表 者 (団体での職名)	団長 うちだ よしのり 内田 義則
功 績 の 概 要	かほく市消防団は、令和6年1月1日16時10分頃、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生、かほく市内においては最大震度5強を観測し、津波警報が発表されました。地震発生後、団長命にて全団員が招集され、各分団が管轄内の警戒巡回、被害状況の把握及び住民の避難誘導を行ったことで、震災における住民への被害を最小限に抑えることに繋がった。また、市内各所で上水道の断水が発生した為、市内数箇所で給水活動が行われ、多くの団員が活動に尽力し、住民への生活支援においても大きく貢献した。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	しかまちしょうぼうだん 志賀町消防団
所 在 地	石川県羽咋郡志賀町
代 表 者 (団体での職名)	団長 おくした けんいち 奥下 建一
功 績 の 概 要	志賀町消防団は、令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」において、震災の当日から団員も被災者である中、断水している避難所への給水作業を実施し、震災の翌日は、町内の道路、家屋の被害状況の調査を行った。 また、震災から2週間ほどが経過し、避難所は床で寝ている住民が多く、健康管理に悪いため、段ボールベッドを組立・設置し、生活環境の改善に協力した。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	ぼうだつしみずちょうしょうぼうだん 宝達志水町消防団
所 在 地	石川県羽咋郡宝達志水町
代 表 者 (団体での職名)	団長 にし あきお 西 明男
功 績 の 概 要	宝達志水町消防団は、令和6年能登半島地震において、発災直後より町内の被害確認及び人命救助を目的とした巡回を行った後、各避難所の仮設トイレの設置や断水に伴う応急給水の支援を町職員と協力して行った。 また、震災に便乗した詐欺や不審者の目撃情報に対して、防犯巡回を行い、町民に安心をもたらした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	ななおししょうぼうだん 七尾市消防団
所 在 地	石川県七尾市
代 表 者 (団体での職名)	団長 ほしば まさあき 干場 政明
功 績 の 概 要	七尾市消防団は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に際し、発災当日には倒壊建物からの救出活動、家屋の閉じ込め、火災活動、ガス漏れ事案等に出動する。その後市内の被害状況調査を行う。出動延べ169名（重複を含む）が活動を行う。 消防団員自らも被災する中、活動に従事した。倒壊建物では常備消防や警察署員など関係者と協力し悲惨な状況からの救出活動にも従事した。 火災対応では、分団詰所の破損などにより出動できない分団や常備消防も道路状況などにより到着が遅れる中、地元団員と直近の常備消防で対応に当たり延焼を阻止し鎮火に至らせた。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	厚 生 労 働 省
ふ り が な 称 名	こうえきしゃだんほうじん にほんいしかい 公益社団法人 日本医師会
所 在 地	東京都文京区
代 表 者 (団体での職名)	会長 まつもと きちろう 松本 吉郎
功 績 の 概 要	日本医師会は、令和6年能登半島地震において、発災当日の令和6年1月1日に「災害対策本部」を設置した。被災県医師会と緊密な連携をとり現地の需要を捉えながら、全都道府県医師会へJMAT派遣要請を行った。 また、全国の会員から支援金を募り、被災県医師会へ配賦するとともに、被災地域からの要請をもとに、政府や関係機関に要望を行った。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	厚 生 労 働 省
ふ り が な 名 称	こうえきしゃだんほうじん ぜんにほんびょういんきょうかい さいがいいりょうしえんちーむ えーまっと 公益社団法人 全日本病院協会 災害医療支援チームAMAT
所 在 地	東京都千代田区
代 表 者 (団体での職名)	AMAT事務局長 か の う しげあき 加納 繁照
功績の概要	公益社団法人全日本病院協会災害医療支援チームAMATは、1月1日に発災した令和6年能登半島地震に際し、アクセスが困難な発災初期において、1月2日から1月11日まで29チーム121名を派遣した。 発災初期は、悪天候や津波の影響で空路と海路が使用できず、新幹線が運休し、移動手段は陸路に限られた。だが、路面状況が極めて悪く、地震の影響で道路が陥没し、寒さで路面凍結する等、移動には危険を要し、他の医療支援チームの参集が難しい状況であった。 このようなアクセスが困難な中で、AMATは病院救急車を活用し、発災翌日（1月2日）から順次出動、恵寿総合病院、公立能登総合病院、公立宇出津総合病院、市立輪島病院、高齢者施設、小木中学校等の避難所等に対し、避難所支援や病院支援、病院間搬送、物資搬送等、広範囲の現地の支援ニーズに対して柔軟に活動した。 特に能登町の避難所である小木小学校・小木中学校の支援活動は困難を極めた。能登町はアクセスが困難な奥能登に位置しており、発災2日後の1月3日時点では、他の医療支援チームも参集出来ず、被害状況の把握が困難であった。 同団体は1月3日に小木小学校・小木中学校避難所に到達し、避難所では約900名の避難者を現地の医療従事者4名で対応していること、水や電気が途絶し、食料や医薬品が不足し、インフルエンザやコロナウイルス等の感染症が発生している状況を把握した。 その状況を保健医療調整本部に報告のうえ、小木小学校・小木中学校の避難者支援を行った。通常の診療に加え、流行するインフルエンザおよび新型コロナウイルスの蔓延を防ぐため、衛生行動の呼びかけ等、感染症対策を行った。小木小学校・小木中学校避難所では、発災初期に状況を把握し、支援したことで災害関連死を抑え、被害の軽減に大きな貢献をした。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	ないかくふおきなわそうごうじむきよく きんきゅうさいがいたいさくはけんたい 内閣府沖縄総合事務局 緊急災害対策派遣隊
所 在 地	沖縄県那覇市
代 表 者 (団体での職名)	隊長 いけだ きみよし 池田 公嘉
功 績 の 概 要	内閣府沖縄総合事務局緊急災害対策派遣隊は、令和6年1月1日に北陸地方で発生した令和6年能登半島地震に伴い、甚大な被害を受けた港湾施設の災害査定資料の作成、調査・設計の支援を行い、港湾施設の復旧に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくりつけんきゅうかいはいはつほうじん けんちくけんきゅうじょ きんきゅうさいがいたいさくはけんたい 国立研究開発法人 建築研究所 緊急災害対策派遣隊
所 在 地	茨城県つくば市
代 表 者 (団体での職名)	構造研究グループ長 いのうえ なみびこ 井上 波彦
功 績 の 概 要	令和6年1月1日、石川県能登地方を震源とする地震が発生し、石川県輪島市、志賀町で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度6強から震度1を観測。また、石川県珠洲市や能登町では高さ4m以上（推定）の津波が襲来した。 この災害に際し、国立研究開発法人建築研究所緊急災害対策派遣隊は、木造建築物、鉄筋コンクリート造等建築物、基礎・地盤、非構造部材、荷重外力、防火の分野別に調査員を順次派遣し、建築物の主な被害状況や要因と考えられる事象などを把握するとともに、被災自治体が行う住まいの復興計画の策定の技術的支援を行った。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくりつけんきゅうかいほつほうじん かいじょう・こうわん・こうくうぎじゅつけんきゅうじょ こうわんくうこうぎじゅつけんきゅうじょ きんきゅうさいがいたいさくはけんたい 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 緊急災害対策派遣隊
所 在 地	神奈川県横須賀市
代 表 者 (団体での職名)	隊長 かわい ひろやす 河合 弘泰
功 績 の 概 要	令和6年能登半島地震に際し、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 緊急災害対策派遣隊は、国土技術政策総合研究所と連携し、港湾施設の被災状況の現地調査を実施するとともに、現地調査結果や当該施設の設計図書等に基づき、岸壁等の利用可否判断や必要に応じて応急復旧工法についての技術支援を行った。これらにより、自衛隊、海上保安庁、民間の船舶等による緊急物資輸送など港湾を活用した支援活動の迅速な実現に多大なる貢献をした。 また、検潮記録や波浪データの解析を行い、津波による防波堤等の被災メカニズムの解析を行うとともに、復旧設計のための臨時地震観測を実施するなど、港湾施設の災害復旧のためデータ収集等を行い、早期復旧に貢献した。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	防 衛 省
ふ り が な 名 称	りくさいぶたい・どうしえんぶたい 陸災部隊・同支援部隊
所 在 地	兵庫県伊丹市
代 表 者 (団体での職名)	中部方面総監 陸将 えんどう まこと 遠藤 充
功 績 の 概 要	陸上災害派遣中部方面部隊は、令和6年1月1日（月）16時10分発災後、直ちに情報収集を開始、同日16時45分、石川県知事から災害派遣要請を受け、石川県全域、特に能登地方を中心に、1月1日から8月31日までの間、延べ505,151名もって、地方自治体及び関係省庁と密接に連携して人命救助、行方不明者の捜索、情報収集活動、道路啓開、土砂等の除去、物資輸送、生活支援等を実施した。特に、土砂崩れや土地の隆起等により被災地域への進出が制限される困難な状況での活動であり、かつ、時折発生する余震と荒天による二次災害を警戒しながらの人命救助活動に尽力したことは、自衛隊の災害派遣活動に対する国民の理解を深めるとともに、信頼感の醸成及び防災意識の高揚に多大に貢献した。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	防 衛 省
ふ り が な 名 称	くうさいぶたい・どうしえんぶたい 空災部隊・同支援部隊
所 在 地	埼玉県狭山市
代 表 者 (団体での職名)	中部航空方面隊司令官 空将 もんま まさひと 門間 政仁 (現 航空幕僚副長)
功 績 の 概 要	航空災害派遣部隊は、令和6年1月1日（月）16時10分発災後、直ちに情報収集を開始、石川県全域、特に能登地方を中心に、1月1日から5月28日までの間、延べ380,592名もって、地方自治体及び関係省庁と密接に連携して人命救助、行方不明者の捜索、情報収集活動、物資輸送、生活支援等を実施した。特に、土砂崩れや土地の隆起等により被災地域への進出が制限される困難な状況での活動であり、かつ、時折発生する余震と荒天による二次災害を警戒しながらの人命救助活動に尽力したことは、自衛隊の災害派遣活動に対する国民の理解を深めるとともに、信頼感の醸成及び防災意識の高揚に多大に貢献した。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	防 衛 省
ふ り が な 名 称	かいさいぶたい・どうしえんぶたい 海災部隊・同支援部隊
所 在 地	京都府舞鶴市
代 表 者 (団体での職名)	舞鶴地方総監 海将 にしわき まさふみ 西脇 匡史
功 績 の 概 要	海上災害派遣部隊は、令和6年1月1日（月）16時10分発災後、直ちに情報収集を開始、石川県全域、特に能登地方を中心に、1月1日から2月27日までの間、延べ40,420名もって、地方自治体及び関係省庁と密接に連携して人命救助、行方不明者の捜索、情報収集活動、人員・物資輸送、生活支援等を実施した。特に、土砂崩れや土地の隆起等により被災地域への進出が制限される困難な状況での活動であり、かつ、時折発生する余震と荒天による二次災害を警戒しながらの人命救助活動に尽力したことは、自衛隊の災害派遣活動に対する国民の理解を深めるとともに、信頼感の醸成及び防災意識の高揚に多大に貢献した。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	警 察 庁
ふ り が な 名 称	いしかわけんけいさつほんぶ 石川県警察本部
所 在 地	石川県金沢市
代 表 者 (団体での職名)	本部長 たなか やすゆき 田中 靖之
功 績 の 概 要	石川県警察本部は、令和6年能登半島地震において、道路の損壊やライフラインの途絶など、過酷な条件の中、全国から派遣された警察災害派遣隊と一体となって、発災後、迅速に救出救助や捜索、住民の避難誘導、交通規制などに従事したほか、長期間に渡り、被災地におけるパトロールや防犯カメラの設置、避難所での相談活動等を積極的に推進した。 また、令和6年9月20日からの大雨においては、浸水地域における迅速な避難誘導、広域緊急援助隊等と連携した広範囲にわたる行方不明者の捜索及び被災地の警戒などを的確に実施し、国民の安全確保や安心感の醸成に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁 ・ 国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	すずししょうぼうだん 珠洲市消防団
所 在 地	石川県珠洲市
代 表 者 (団体での職名)	団長 あきまえ かずお 秋前 一雄
功 績 の 概 要	【令和6年能登半島地震】 令和6年1月1日16時10分頃に発生した令和6年能登半島地震は、震源地の珠洲市で死者122名（うち災害関連死25名）、重症者47名、軽症者202名、全半壊家屋等は11457棟となった。また、火災、津波被害、道路の陥没、崖崩れなど数知れず、激甚災害と指定されるほどの未曾有の大災害となった。珠洲市消防団は、震度6強の地震発生と同時に、極めて危険かつ困難な状況で、自らの命の危険を顧みず火災の消火活動、倒壊建物からの人命救助、住民の安否確認、避難誘導活動等に従事した。また、二次被害防止のため、各地区の道路被害状況の確認を行い、障害物撤去や、余震に対する警戒巡視活動、避難所の設営補助を実施するなど、災害活動に多大な貢献をした。 【令和6年奥能登豪雨】 令和6年9月21日9時00分頃に発生した令和6年奥能登豪雨は、能登北部で線状降水帯が発生し、大雨特別警報が発表されるなど、記録的な豪雨に見舞われた。珠洲市では1時間の降水量は84.5mmと観測史上最大を記録した。これにより、死者3名、軽症者9名の人的被害を始め、市内7箇所（河川が氾濫し、道路の陥没、土砂崩れなどは数知れず、市内全域5,544世帯11,629人に避難指示が発表される未曾有の大災害となった。珠洲市消防団は、線状降水帯の発生に伴い各分団員が招集し、自らの命の危険を顧みず、人命救助、住民の安否確認、避難誘導活動等に従事した。各地区の土砂災害状況及び道路被害状況の確認を行い、障害物撤去作業や、避難所の設営補助を実施するなど、災害活動に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁 ・ 国 土 交 通 省
ふ り が な 称 名	のとちょうしょうぼうだん 能登町消防団
所 在 地	石川県鳳珠郡能登町
代 表 者 (団体での職名)	団長 ほそばた よしひこ 細畑 芳彦
功 績 の 概 要	【令和6年能登半島地震】 令和6年1月1日、16時10分に発生した令和6年能登半島地震は、当町において最大震度6強を記録し、管内全域に甚大な被害をもたらした。 能登町消防団は、発災時から大津波警報発令に伴い住民の避難誘導、津波到達後に発生した建物火災（11棟）、倒壊家屋からの人命救助、常備消防の救急活動補助、管内の被害状況調査、安否確認にあたるなど、昼夜を問わず活動した。また、継続し発生する余震及び大雪に伴い、被害状況が悪化していく中、巡回活動、消防水利の点検、水道管復旧作業の補助を精力的に行い、平素の防災意識の高揚活動とあいまって、被害の軽減に多大な貢献をした。 【令和6年奥能登豪雨】 令和6年9月21日、午前9時過ぎから激しさを増した雨により河川の氾濫、道路の冠水が至る所で発生。また、令和6年能登半島地震で被害を受けた道路の崩壊や土砂崩れにより孤立集落が発生する等、令和6年9月能登半島豪雨は当町において甚大な被害をもたらした。 能登町消防団は、大雨特別警報及び記録的短時間大雨情報の発表に伴い、住民への警戒広報、巡回パトロール、常備消防の救急補助、冠水道路の排水作業及び水防活動にあたった。また、孤立集落において、行方不明者の捜索を実施。捜索にあたり、重機を使用し堆積物の除去及び道路啓開作業を実施する等、行方不明者発見に大いに貢献した。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁 ・ 国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	わじまししょうぼうだん 輪島市消防団
所 在 地	石川県輪島市
代 表 者 (団体での職名)	団長 やまがき ひでお 山吹 英雄
功 績 の 概 要	【令和6年能登半島地震】 輪島市消防団は令和6年能登半島地震に際し、地震発生から14日間にわたり、延べ590人が出動し、災害活動に従事したことにより、人命の安全確保や被害の軽減に多大な貢献をした。 【令和6年奥能登豪雨】 輪島市消防団は、令和6年能登半島地震からの復旧もままならない中、自らも被災者であったにもかかわらず、大雨特別警報が発表された9月21日の豪雨に際して延べ231人が出動し、降り続く豪雨、氾濫する河川や土砂災害が相次いで発生する極めて困難な状況下で、水防活動を行うとともに、救助活動や避難誘導、安否確認を実施し、更には行方不明者を捜索するなど、人命の安全確保や被害の軽減に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくりつけんきゅうかいはつほうじん どぼくけんきゅうじょ きんきゅうさいがいたいだくはけんたい 国立研究開発法人 土木研究所 緊急災害対策派遣隊
所 在 地	茨城県つくば市
代 表 者 (団体での職名)	上席研究員 くさか あつし 日下 敦
功 績 の 概 要	【令和6年能登半島地震の対応】 国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊は、令和6年能登半島地震に対応するために、47日間にわたり、延べ13名の専門家を派遣し、土砂災害、道路土工、トンネル、ダム等の被災状況の調査を行い、二次災害の危険性等に関わる技術的所見や復旧方針等の高度な技術指導を実施し、被災地の早期復旧に大きく貢献した。 【令和6年9月20日からの大雨の対応】 国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊は、令和6年9月20日からの大雨に対応するために、3日間にわたり、延べ5名の専門家を派遣し、河川堤防の決壊や河岸浸食等の被害を踏まえた今後の対策や土砂流出を踏まえた今後の警戒避難体制の構築などの高度な技術指導を実施し、被災地の早期復旧に大きく貢献した。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくどうつうしょうきんきゅうさいがいたいさくはけんたい 国土交通省緊急災害対策派遣隊
所 在 地	東京都千代田区
代 表 者 (団体での職名)	隊長 いしだ かずのり 石田 和典
功績の概要	1) 令和6年能登半島地震 国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和6年能登半島地震に際し、令和6年1月1日から5月31日の約6ヶ月にわたり、全国から出動したのべ25,967名が出動し、現地関係機関との総合的な調整や被災した公共土木施設の被災状況調査、リエゾンによる被害情報や支援ニーズの把握、関係機関や協定業者と連携した道路啓開作業、被災建築物の応急危険度判定のほか、断水地域での給水支援、停電地域の避難所への電源支援等の実施や下水道施設、空港、鉄道施設の復旧や応急仮設住宅の確保に関する技術的指導など、全力で地方公共団体への支援を実施した。 その活動は、被災地の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体等から大きな信頼を得ることとなり、その功績は顕著である。 2) 令和6年7月25日からの大雨 国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和6年7月25日からの大雨による災害に際し、令和6年7月25日から8月19日の約1ヶ月にわたり、全国から出動したのべ2,655名が出動し、リエゾンによる被害情報や支援ニーズの把握のほか、関係機関との調整などにより、被災した地方公共団体が所管する施設の被災状況調査や、被災した河川堤防の応急対策支援などを実施した。 その活動は、被災地の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体等から大きな信頼を得ることとなり、その功績は顕著である。 3) 令和6年9月20日からの大雨 国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和6年9月20日からの大雨による災害に際し、令和6年9月20日から11月1日の約1ヶ月にわたり、全国から出動したのべ3,448名が出動し、リエゾンによる被害情報や支援ニーズの把握のほか、関係機関との調整や協定業者と連携した道路啓開、排水作業や

被災した地方公共団体が所管する施設の被災状況調査、断水地域での給水活動、停電地域の避難所への電源支援等の実施、被災した河川や上下水道等の公共土木施設の復旧に関する技術的指導を行い、全力で地方公共団体への支援を実施した。

その活動は、被災地の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体等から大きな信頼を得ることとなり、その功績は顕著である。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	たかはたまちしょうぼうだん 高畠町消防団
所 在 地	山形県東置賜郡高畠町
代 表 者 (団体での職名)	団長 おおにし かずのり 大西 一憲
功 績 の 概 要	高畠町消防団は、令和6年4月28日から鎮火まで4日間を要した本火災を含み、令和6年4月22日～5月25日の期間に発生した町内安久津地区蛭沢湖周辺における10件の林野火災等において、延べ1141人の消防団員が昼夜を問わず消火活動及び警戒活動にあたり、火災の鎮火へと全力を注いだ功績は真に顕著であり、地域住民の期待に大いに応えるものであった。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	なんようししょうぼうだん 南陽市消防団
所 在 地	山形県南陽市
代 表 者 (団体での職名)	団長 しかま さだき 色摩 貞樹
功 績 の 概 要	南陽市消防団は、令和6年5月4日に発生した林野火災において、延べ1, 217人の消防団員が5日間にわたり消火活動及び警戒活動にあたり、住宅地への延焼を食い止め、火災の鎮火へと全力を注いだ功績は大変すばらしく、地域住民の期待に大いに応えるものであった。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	ゆりほんじょうししょうぼうだん 由利本荘市消防団
所 在 地	秋田県由利本荘市
代 表 者 (団体での職名)	団長 あ べ かずひこ 阿部 一彦
功 績 の 概 要	由利本荘市消防団は、令和6年7月24日から秋田県を襲った非常に激しい雨の際、5日間にわたり、延べ610名が出動し、豪雨が続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視を行い、越水した際には、交通誘導や住民への避難誘導、人命救助活動等の水防活動を行い、平素の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	とざわむらしょうぼうだん 戸沢村消防団
所 在 地	山形県最上郡戸沢村
代 表 者 (団体での職名)	団長 きむら たけお 木村 武夫
功 績 の 概 要	戸沢村消防団は、令和6年7月25日から降り続いた大雨の際、4日間にわたり延べ387名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視を行い、可搬ポンプによる排水作業や住民の避難誘導、浸水した地区で孤立した住民の人命救助活動等の水防活動を行い、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	ふじえだししょうぼうだん 藤枝市消防団
所 在 地	静岡県藤枝市
代 表 者 (団体での職名)	団長 まつうら 文信 松浦 文信
功 績 の 概 要	藤枝市消防団は、台風第10号に際し、令和6年8月27日から9月1日の5日間（28日を除く）にわたり、延べ239名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川及び冠水地域の巡視を行い、浸水による被害や越水を未然に防ぐため、積み土のうを設置した。また、道路冠水等の被害を受ける危険な状況の中、排水作業等を行い、浸水被害や人的被害の軽減に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	やくしまちようしょうぼうだん 屋久島町消防団
所 在 地	鹿児島県熊毛郡屋久島町
代 表 者 (団体での職名)	団長 さかの しゅうぞう 坂野 修三
功 績 の 概 要	屋久島町消防団は、令和6年台風第10号に際し、豪雨の中昼夜にわたり、延べ223名が出動し、そのうち特に活動した一湊班は、集落冠水（冠水のおそれ）発生時における排水・浸水防止対策対応及び、浸水地域内居住住民への注意喚起広報・安否確認・避難行動支援を行った。団員の平素からの水防意識の高さと早期の活動が冠水による浸水害の軽減につながった他、浸水による人的被害の事前防御に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	かかみがはらししょうぼうだん 各務原市消防団
所 在 地	岐阜県各務原市
代 表 者 (団体での職名)	団長 ひろせ としあき 廣瀬 俊昭
功 績 の 概 要	令和6年10月11日14時30分頃、市内のリサイクル資材を扱う集積場で火災が発生し、各務原市消防団員延べ437名（消防団車両43台）が2日間にわたり消火活動に従事した。 現場は、布団、ガスボンベ、電化製品など多くのリサイクル商品が堆積していたため、これらに延焼し、消火が非常に困難な状態が続き、鎮火時間は翌日の13時00分となった。 消防団は早期に出動し、常備消防車両が進入できない場所に部署し、水利の確保が厳しい中、河川から小型動力消防ポンプで水を汲み上げ、隣接する住宅への延焼を阻止した。また、消火が困難な状況の中、多くの団員が力を結集し、堆積物の掻き出しを行い、延焼阻止に大きな貢献があった。 消防団の迅速な対応と団結力が、火災による被害を最小限に抑えることに繋がった。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	おおふなとししょうぼうだん 大船渡市消防団
所 在 地	岩手県大船渡市
代 表 者 (団体での職名)	団長 おおた まさひろ 大田 昌広
功 績 の 概 要	大船渡市消防団は、令和7年2月26日に発生した大船渡市赤崎町合足地内林野火災において同年4月7日17時30分の鎮火宣言に至るまでの41日間、その活動は多岐にわたり、避難指示地域が拡大していく中、迅速かつ懸命な避難誘導及び広報活動を行った。また、無水利地区での長距離中継送水、消防署隊と連携し円滑な消火活動を行い、住民の生命・身体・財産を守るために努めた功績は誠に顕著である。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	おかやまししょうぼうだん 岡山市消防団
所 在 地	岡山県岡山市
代 表 者 (団体での職名)	団長 かたやま けいし 片山 敬史
功 績 の 概 要	岡山市消防団は、令和7年3月23日15時02分覚知、岡山市南区飽浦地内で発生した林野火災は、貝殻山山系約486ヘクタールを焼損し、記録が残る1965年以降、岡山県内で最大の林野火災となった。 岡山市消防団は、延べ2, 194人の団員が9日間にわたり夜を徹しての消火活動及び警戒活動を行った。火災の鎮火へと全力を注いだ懸命な功績は誠に顕著である。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	たまのししょうぼうだん 玉野市消防団
所 在 地	岡山県玉野市
代 表 者 (団体での職名)	団長 ふじわら しげき 藤原 重喜
功 績 の 概 要	玉野市消防団は、令和7年3月23日岡山県岡山市南区飽浦で発生した大規模林野火災に際し市境が隣接していることもあり、早期に消火活動を実施し、延べ5日間、754人の団員が出動した。その結果、玉野市管轄内への焼損を最小限にとどめ、人的被害及び建物等への延焼を阻止した。 当該火災では瀬戸内特有の地質等に起因する猛烈に迫り来る炎に加え、水源が豊富な場所では無いことから、遠距離中継送水による消火活動を実施し、不眠不休の消火活動を行い、一人として人的被害を出さず、玉野市管内では一軒の延焼建物も発生させることもなく、大規模林野火災の被害軽減に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	いまばりししょうぼうだん 今治市消防団
所 在 地	愛媛県今治市
代 表 者 (団体での職名)	団長 ふじわら きよひさ 藤原 清久
功 績 の 概 要	今治市消防団は、活動初期は常備消防と連携し、焼損防止を最優先とした火災防御活動を行った。延焼拡大を認めるため民家への焼損防止及び住民の避難誘導を実施。中期頃には継続した火災防御活動、各へり支援警戒及び警戒巡視を実施。後期頃は延焼抑制が図られた後、可搬ポンプ、ジェットシュータやスコップ等の活用により放水等を実施し、残火を完全に鎮圧・鎮火する。その後、警戒巡視及び広報活動を実施した。また、女性消防団員についても交通整理や炊き出しなど、後方支援活動を行い多大な貢献があった。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	さいじょうししょうぼうだん 西条市消防団
所 在 地	愛媛県西条市
代 表 者 (団体での職名)	団長 とだ もとい 戸田 基
功 績 の 概 要	西条市消防団は、令和7年3月愛媛県今治市長沢において発生した林野火災に際し、10日間延べ987名の団員が出動し、昼夜にわたり消火活動や周辺住民の避難誘導を行い、被害の軽減に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	まつやまししょうぼうだん 松山市消防団
所 在 地	愛媛県松山市
代 表 者 (団体での職名)	団長 おおにし こうじ 大西 浩司
功 績 の 概 要	松山市消防団は、令和7年3月23日（日）15時50分頃に発生した今治市長沢での林野火災に、県内で初めて愛媛県消防団広域相互協定に基づき出動し、3月25日には4分団25名が消火活動に当たり、3月26日には5分団29名が出動した。26日は、ヘリによる空中消火中心の活動であったため、消防団の活動はなかったが、不測の事態に備え、常に活動できる状態で待機していたもの。 これらの活動により、発生から9日目での鎮圧に大きく貢献した。

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏	いのうえ しげと 井上 重人
住 所	広島県呉市
職 業	
功 績 の 概 要	氏は、地元の自治会長として、平成20年6月に自主防災組織を設立して以来、防災活動は地区住民が一体となって取り組むことをモットーとして、地域に根ざした防災活動に積極的に取り組んできた。 防災士としての卓越した知見と伝える力が評価されており、県（自主防災アドバイザー）、市（防災リーダー養成講習講師）、民間、住民団体の活動等に参画して、専門家にはない視点からの防災思想の普及に貢献してきた。

功 績 概 要

個人〔防災思想の普及〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏	つちだ ていこ 槌田 禎子
住 所	長崎県長崎市
職 業	株式会社テレビ長崎 報道部 記者
功 績 の 概 要	氏は地方テレビ局「テレビ長崎」の記者として1982年の長崎豪雨災害、1990年から1995年にかけての雲仙・普賢岳噴火災害等を取材し、災害発生から復旧・復興に至るまで地域に密着して、被災者や地域住民の活動の報道にあたってきた。 さらに、取材で蓄積した知見と伝える力が評価され、国際会議、学会、国・県・市町、住民団体の活動等に参画して、専門家にはない視点からの防災思想の普及に貢献した。 特に、6月3日の雲仙・普賢岳の火砕流では報道機関の取材活動によって、取材陣に加えて地元の消防団員が被災したことを重く受け止めて、地元の集落の皆さんと向き合い続け、災害取材のあり方、災害遺構の保存・伝承、防災関係者との連携に取り組むなど、雲仙噴火災害を語る上で重要なキーマンである。 氏は、多様な主体が参画する日本災害情報学会や日本災害復興学会の創設、内閣府の災害教訓の継承、被災者対策の構築につながる重要な活動を行い、防災思想の普及にも大きく貢献した。

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	あべ ひでひこ 阿部 秀彦
住 所	北海道伊達市
職 業	室蘭市立蘭北小学校 事務職員
功 績 の 概 要	氏は、平成22年に洞爺湖有珠火山マイスターの資格を取得し、主に有珠山周辺地域の児童生徒を対象に火山防災学習の活動が続けてきた。その継続的な取り組みの結果、地域の児童生徒は全員必ず有珠山の火山防災学習を行う体制が出来、それが現在においても継続している。また、メディア等による一般向けの防災活動も行い、地域全体の防災力の向上に多大な貢献をしている。

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	しのだ だいすけ 篠田 大輔
住 所	埼玉県川口市
職 業	株式会社シンク 代表取締役
功 績 の 概 要	氏は、平成7年の阪神・淡路大震災の被災体験をもとに、スポーツを活用して災害時に必要な行動や知識を備える「防災スポーツ」による防災教育プログラムを開発し、兵庫県神戸市や岩手県釜石市、宮城県石巻市等の被災地域において地域住民向け活動を実施しているほか、プロスポーツチームや学校現場等とも連携した取組を展開するなど、スポーツを活用した災害に備える防災プログラムの普及啓発に取り組み、防災思想の普及に当たり多大なる貢献している。

功 績 概 要

個人〔防災思想の普及〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	よしかど なおこ 吉門 直子
住 所	高知県高知市
職 業	土佐市教育研究所 所長
功 績 の 概 要	氏は、長く高知県教育委員会事務局の職員として学校安全に携わり、高知県の防災教育の発展に尽力してきた。氏が中心となって開発した防災教材が、高知県の防災教育の礎となっている。また、文部科学省の安全教育調査官として全国各地で指導助言を行うなど、防災教育の更なる推進と普及に多大なる貢献をした。 校長として着任した土佐市立蓮池小学校では、学校安全総合支援事業の拠点校として、2年間の取組を通じて後進の育成に努めた。退職後の現在も土佐市教育研究所長として、市内外の小中学校における防災教育の普及及び発展に尽力している。 なお、令和6年度より「学校安全の推進に関する有識者会議」に委員として参画するなど、現在も精力的に活動し、防災思想の普及に多大なる貢献を果たしている。

功 績 概 要

団体〔防災思想の普及〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 称 名	しゅもくだんちじしゅぼうさいかい 檀木団地自主防災会
所 在 地	愛知県日進市
代 表 者 (団体での職名)	会長 おおの ただお 大野 忠夫
功 績 の 概 要	檀木団地自主防災会は、設立後、定期的な総会の開催や防災会だよりの発行、各組長による避難時要援護者調査及び各家庭の家族構成調査、また家族構成調査に基づく安否確認調査票の作成など地域防災力向上のため様々な活動を行ってきた。令和2年度からは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎年開催していた防災訓練を中止し、代替として家具転倒防止金具や漏電防止具、非常持ち出し品といった防災品の展示会を開催し、地域住民に災害への備えについて考えてもらう機会を設けた。コロナ禍において活動自粛を余儀なくされる防災会が多い中、創意工夫を凝らし住民の防災意識の高揚に努めていることは他の模範と認められる。 また、令和5年度以降は従来の避難訓練を再開するとともに引き続き展示会も開催し、地域住民の防災意識の更なる向上に寄与している。

功 績 概 要

団体〔防災思想の普及〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 称 名	おおはるみなみしょうがっこう 大治南小学校
所 在 地	愛知県海部郡大治町
代 表 者 (団体での職名)	校長 すぎうら ゆうこ 杉浦 祐子
功 績 の 概 要	大治南小学校（以下、当校）は、未来に起こりうる災害に備えるため、定期的な避難訓練の他、当校独自の取り組みとして、「自分の命を守り、助け合って生き抜くことができる児童の育成」をテーマに「校舎内の危険箇所の確認」や、「防災かるた」、「ゲリラ豪雨の原因」の授業など、防災・減災を題材にした活動を令和２年度に実施している。 また、児童に対し、防災・減災の基本的知識を伝える機会を創出できないか、当校から大治町防災危機管理課に提案があったことがきっかけで始まった「防災教育」は、４～６年生の学年ごとにテーマを分け、災害図上訓練（DIG）や、町ハザードマップを実際に見ながら地域の特性と起こりうる災害について学び、避難所の模擬体験を通して、町内の避難所の場所や仕組みを学習するなど、当校との調整のもとで令和２年度から実施しており、これまでで述べ約１，４００人の児童が防災教育を受講している。 以上のことから、当校は、児童が災害時に命を守るための行動が取れるよう、防災・減災の知識や意識を日常から身に付ける体制を確立している。 さらに、児童が地元の地域的特徴を理解しながら防災への意識を高めることが大切と考え、「自らの命を守り、地域の防災を考える児童の育成」を研究テーマとして新たに設定し、令和６年度は体験学習として「学校探検」を始め、「学校区探検」、「スーパーマーケット防災機器見学」等を実施した。この体験学習を通して地域の防災対策に触れることで、児童にとって、災害や防災という考え方が身近な自分事として認識するよう促した。

功 績 概 要

団体〔防災思想の普及〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名	くすばししょうねんしょうぼうくらぶ くすばし少年消防クラブ
所 在 地	福岡県北九州市
代 表 者 (団体での職名)	あおやぎ まさあき 青柳 正明
功 績 の 概 要	くすばし少年消防クラブは、平成24年12月1日の発足以来、年間を通じて、地元を中心に訓練や防災訓練・各種行事等へ参加するなど、活発に活動を行っている。 特に、平成27年8月に初参加した少年消防クラブ交流会（全国大会）及び平成28年1月に市内の少年消防クラブとして初参加した北九州市消防出初式の部隊行進は、令和6年まで毎年参加した。 なお、特筆すべき事項として、平成29年7月に開催された第21回ヨーロッパ青少年消防オリンピックにおいて、同クラブが日本代表チームの一員として派遣されていることや、これまでの消防団と連携した地域活動が高く評価され、消防庁等が主催する「地域防災力充実強化大会in福岡」において、活動事例発表を行ったことなどが挙げられる。 また、同クラブは、訓練、研修や地域活動等に限らず、クラブ員同士の親睦を図り、少年期の良き思い出となるレクリエーション活動等も行っている。

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	かしまぼうさいさぽーたーずくらぶ かしま防災サポーターズクラブ
所 在 地	佐賀県鹿島市
代 表 者 (団体での職名)	代表 ふじい え やすこ 藤家 耕子
功 績 の 概 要	かしま防災サポーターズクラブは、令和2年に発生した豪雨災害の際にボランティア活動を実施して、そこで得た知識・経験を活用し幅広い年齢層に出前講座を開催している。 【これまでの活動】 ・学校や老人クラブ等の団体へ出前講座（毎年10回程度） ・令和2年大分県天ヶ瀬へ災害支援 ・令和2年7月豪雨により鹿島市で浸水被害等があった地区へ清掃作業や土砂撤去作業のボランティア活動 ・令和5年災害支援 佐賀市富士町、唐津市、福岡県久留米市 ・熊本地震災害ボランティア→活動後、意見交換会

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 称	うちごうじょせいしょうぼうくらぶ 内郷女性消防クラブ
所 在 地	福島県いわき市
代 表 者 (団体での職名)	隊長 えんどう かずこ 遠藤 和子
功 績 の 概 要	内郷女性消防クラブは、永年の活動をとおして、「防災手話講習会」、「外国人に対する防災指導」、「防災教育の実施」、及び「住宅用火災警報器の設置・更新促進に係る広報」など、多岐にわたって防火・防災思想の普及に努めた。

功 績 概 要

団体〔防災思想の普及〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	きゃっせんえりあぷらっとふぉーむ キャッセンエリアプラットフォーム
所 在 地	岩手県大船渡市
代 表 者 (団体での職名)	都市再生推進法人 株式会社キャッセン大船渡 代表取締役 たむら みつる 田村 満
功 績 の 概 要	キャッセンエリアプラットフォームは、東日本大震災後に設立され、まちづくり会社であるキャッセン大船渡を中心に、津波復興拠点整備区域である大船渡駅周辺地区に立地する事業者等と大船渡市で構成され震災後のまちづくりを進めている。 手軽に活用できるスマホに音声ARを導入し震災疑似体験に没入できる仕様とし、避難時のジレンマや葛藤を体感することができ、避難行動の重要性を気づき、身につけ、自らの命を守り抜ける人の育成を防災学習プログラムによって目指している。 令和3年のリリース後、令和4年度485人、令和5年度437人、令和6年度594人の教育旅行等の受け入れを行って、災害の経験という有形・無形の資産を活用し地元の観光資源の再定義と地域の再活性化・高付加価値化に向けた事業としている。

功 績 概 要

団体〔防災思想の普及〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	たからづかしりつたからづかぶんかそうぞうかん 宝塚市立宝塚文化創造館
所 在 地	兵庫県宝塚市
代 表 者 (団体での職名)	館長 みと ひろのり 三戸 裕徳
功 績 の 概 要	宝塚文化創造館において開催されている『宝塚ぼうさい劇場～地域と劇場が創造する防災訓練のかたち～』（平成25年度に「ハートフル避難訓練コンサート」と題してスタートし、令和7年度に第12回を迎える。）は、毎年、地域課題に合わせたテーマを設け、地域の自治会、消防署、創造団体、ボランティア団体、アーティスト等と連携し、多数の地域住民が参加する中、音楽や人形劇、クイズ、避難訓練を組み合わせた体験型防災教育を実施している。コロナ禍においても映像配信による防災教育を継続し、地域の防災力の維持・向上に努めるなど、平素からの防災意識の醸成と地域コミュニケーションの活性化に貢献した。

功 績 概 要

団体〔防災思想の普及〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 称 名	ふくさきちょうりつたわらしょうがっこう 福崎町立田原小学校
所 在 地	兵庫県神崎郡福崎町
代 表 者 (団体での職名)	校長 たかおか ひろあき 高岡 宏明
功 績 の 概 要	田原小学校は、地域の消防団と長年にわたり連携し、合同防災訓練を始めとする多様な防災活動を積極的に展開している。子どもたちは、地域で活躍する消防団員の姿を間近に見ることで、防災の重要性を実感するとともに、地域の安全を支える大人たちへの尊敬の念を育んでいる。近年では、消防団員をゲストティーチャーとして招き、教職員だけでなく子どもたちにも心肺蘇生法やAEDの使用方法を指導するなど、命を守るための技術の普及にも力を入れている。これにより、子どもたち自身の防災意識が高まるとともに、家庭や地域にもその学びが波及し、住民全体の安全・安心の向上に寄与している。連携する地元消防団は、人口2万人弱の町において、団員定数600名、充足率100%を30年以上維持し、平均年齢も約33歳と全国的にも若い団員で構成されている。田原小学校との継続的な連携は、将来の消防団員の育成にもつながっており、子どもたちが地域貢献の意識を持ち、将来の担い手として育つ土壌を形成している。また、町福祉課と連携した防災教育で、手話による災害時の対策について話し合う活動にも取り組んでいる。子どもたちがヒアリングを行い、その結果をまとめて町長に提出したところ、災害時用のコミュニケーション支援ボードを町が作成するに至った。このように子どもたちが主体的に取り組む活動も行っており、地域とのつながりを深めながら共生社会の実現をめざす防災教育も実践している。このように、田原小学校の取り組みは、地域の防災力を高めるとともに、子どもたちの健全な成長と地域愛の醸成に大きく貢献しており、総務省消防庁の「防災・危機管理eカレッジ～こどもぼうさいランド～」に掲載されるなど、全国の小学校にとっても模範となるものである。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	せきや なおや 関谷 直也
住 所	東京都豊島区
職 業	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター長・教授
功 績 の 概 要	氏は、災害情報研究の第一人者であり、特に災害情報や避難行動、リスク・コミュニケーション研究の分野において、優れた成果を残している。これらは『災害情報―東日本大震災からの教訓』に総括され、各所から評価を受けている。 氏は、新潟県が設置した「令和6年能登半島地震を踏まえた防災対策検討会」の座長として、同地震における災害対応の経験や教訓を踏まえ、今後の防災対策における取組の方向性について検討し、報告書に取りまとめた。新潟県は、これらを県地域防災計画や施策に反映することとしている。氏は、これまでも新潟県の避難や災害対策にかかる委員会に数多く参画しており、新潟県の防災力向上に多大な貢献を果たしてきた。 国の防災行政においては、内閣府、国土交通省、気象庁、総務省消防庁などにおける委員会に数多く参画し、南海トラフ地震対策、防災気象情報の制度設計や大規模噴火対策など大規模災害対策に関する幅広い政策形成に寄与している。 また、原子力災害に関する数多くの調査活動を行うなど、福島県の風評被害をめぐる政策やリスクコミュニケーションの在り方を確立した。 災害情報、社会心理学の専門家として、わが国の大規模災害対策の推進において、唯一無二かつ顕著な貢献を果たしており、防災行政における貢献度は大である。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	かのう ひでき 加納 秀記
住 所	愛知県名古屋市
職 業	愛知医科大学病院 救急診療部 教授・部長
功 績 の 概 要	氏は、平成24年に設置された愛知県災害医療コーディネーターに就任し、災害医療体制の確立に向けて指導的立場で取り組んだ。 また、厚生労働省DMAT（災害派遣チーム）では、全国のDMAT活動において活躍している。東日本大震災を始め震災、台風被害、新型コロナ対策など災害医療活動を行った。中部国際空港においての飛行機事故の訓練計画について平成24年から指導的立場で取り組んでいる。 このように、氏は、愛知県を中心に、全国規模での災害医療体制の構築に多大な貢献をしている。

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	かがわ たかお 香川 敬生
住 所	鳥取県鳥取市
職 業	鳥取大学大学院 工学研究科 教授
功 績 の 概 要	氏は、強震動地震学及び地震工学の専門家（現鳥取大学教授）として、鳥取県防災顧問、鳥取県地震防災調査研究委員会委員長、鳥取県減災目標等策定委員会委員長、鳥取県原子力防災顧問等を歴任し、鳥取県の防災行政に係る有益な提言や助言を行うなど、鳥取県全体の地域防災力の強化に長年尽力している。 また、平成26年から鳥取県内の震度分布をリアルタイムで表示できるシステムの開発に着手し、鳥取大学のほか県に提供しており、地震災害時の早期状況把握や初動体制の構築の面で大いに貢献をしている。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	あべ めぐむ 阿部 恵
住 所	徳島県勝浦郡勝浦町
職 業	自営業
功 績 の 概 要	氏は、平成２５年４月勝浦町自主防災組織連絡協議会会長に就任し、平成２９年４月勝浦防災士会を立ち上げるなど、長年にわたり、勝浦町地域の防災力の向上と防災に携わる人材の育成に尽力されるとともに、積極的な防災活動への取り組み、町としての防災への意識を大きく高めている。平成３０年から徳島県自主防災組織連絡会副会長に就任し、現在に至る。 防災士会が発足した後も自らが中心となり、毎月定例会を開催し、応急処置訓練・AED講習会・ロープワーク・三角巾の使用について講習会を実施している。また、自ら勝浦町福祉避難所運営ガイドラインやため池崩壊による避難ガイドライン、地区防災計画を作成し、防災士会で説明を行うなど、地域の防災力向上に貢献している。 さらに、毎年勝浦町で実施している全町一斉防災訓練に率先して参加しているほか、H26に県内（那賀町）で発生した豪雨災害、またR6能登半島地震発災後には災害ボランティアとして避難所の運営支援等を行い、自らの災害ボランティアの経験を防災講演会で発表するなど、地域住民の防災意識の高揚や防災知識の普及啓発を図っている。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	あおい しん 青井 真
住 所	茨城県つくば市
職 業	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 巨大地変災害研究領域 研究領域長
功 績 の 概 要	氏は、平成7年阪神・淡路大震災以降、防災科学技術研究所において一貫して全国規模の地震津波観測網の構築に携わり、世界最高レベルの観測網の実現と運用を牽引している。また、南海トラフ海底地震津波観測網N-netの整備を統括し令和7年6月に完成させ、南海トラフ巨大地震の想定震源域の西半分に残されていた観測の空白域を解消することに大きく貢献した。これらは、陸海統合地震津波火山観測網MOWLASとして、緊急地震速報・津波警報・震度情報を始めとする官民の防災情報を支えている。また、地震調査研究推進本部の政府等の委員会に参画するなど防災行政に資する取り組みに尽力した。

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	つぼき かずひさ 坪木 和久
住 所	愛知県名古屋市
職 業	名古屋大学教授
功 績 の 概 要	氏は、2017年に日本で初めて航空機によるスーパー台風の観測を成功させて以来、台風の航空機観測を継続的に実施してきた。台風の眼内部で中心気圧を測定する航空機観測技術確立し、観測データを航空機からリアルタイムで気象庁および世界各国の気象予報機関へ送信する体制を構築した。これにより、台風の強度の予測精度向上に寄与し、台風の防災対策において顕著な貢献を果たしてきた。 また、国の専門委員等においても、多くの活動実績があり、国の防災施策の充実強化に貢献してきた。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	なかむら かずき 中村 一樹
住 所	新潟県長岡市
職 業	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 極端気象災害研究領域雪氷防災研究センター センター長
功 績 の 概 要	氏は、気候変動に伴う降積雪の量的、質的な変化と高齢化等の社会情勢の変化により変容している雪氷災害に対応するため、令和7年冬期の青森県の豪雪災害のような大きな豪雪災害が発生した際に、多様な機関が参画したチームを組織して自らが中心となっていち早く現地調査を実施し、災害対策に資する情報提供を自治体や市民等に行いながら、それに対するフィードバックを得て行う共創研究の体制を構築し、気候変動下の豪雪災害対策研究を推進した。 氏は、スマホAI路面判定システムの開発を始めとする環境変化に適応した克雪技術の開発研究を中心的に実施した。同システムは、青森県をはじめ、北海道、東北、北陸地方の多数の自治体に試験運用エリアが広がっており、首都高速道路等の道路管理者でも実証試験が開始されている。

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	ふるむら たかし 古村 孝志
住 所	東京都豊島区
職 業	東京大学地震研究所 所長
功 績 の 概 要	氏は、強い揺れや大津波の発生メカニズムおよびその予測に関する研究に長年取り組み、地震・津波防災の基盤を支える優れた成果を挙げてきた。大地震発生時には、テレビや新聞等を通じて専門的知見に基づく迅速かつ的確な解説を行い、国民の適切な安全行動を促すとともに、平時から防災教育や啓発活動にも継続的に尽力している。さらに、内閣府防災、文部科学省、気象庁等の専門委員を長年務め、地震学的知見に基づく国の防災政策の高度化に顕著な貢献を果たしている。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 氏 名	ふじた まさはる 藤田 正治
住 所	京都府宇治市
職 業	一般財団法人 砂防・地すべり技術センター 研究顧問
功 績 の 概 要	氏は、京都大学において、永年にわたり砂防学にかかる多数の研究業績をあげられたほか、地域防災活動にも活用可能な警戒避難支援ツールを開発するなど、地域防災力の向上にも大きく貢献された。研究活動では、流砂や河床変動の研究に基礎を置きつつ、幅広い視点から土砂移動に伴い発生する様々な問題解決につながる先駆的な研究を展開し、多くの論文を、砂防学会誌を始めとした学術誌に投稿されている。特に、様々な降雨パターンにおいて避難行動に影響するハザードの発生を予測する、警戒避難に対する支援ツールとしての複合土砂災害シミュレータ（SiMHiS）を開発した。このシミュレータは、地域・地区での事前の防災活動にも活用されており、地域防災力の向上に大きく役立っている。また、国土交通省や近畿地方の府県を中心に数多くの委員会等に参加され、最新の研究成果や高度な知見をもとに、技術的、学術的な面からの確な助言、指導を行うなど、砂防行政においてより効果的な施策を立案・展開するため多大なる貢献があった。さらに、大学において質の高い教育を实践され、これにより多くの優秀な砂防技術者を輩出した。その他、各種シンポジウムや学術的な会議において基調講演を行うとともに、土砂災害にかかる講義、説明を行うなど、講演や広報活動を通じて若手研究者や技術者への技術伝承にも努められている。加えて、令和2年から令和4年までは、公益社団法人砂防学会長として、全国各地で発生した土砂災害に対する現地調査等を主導し、緊急調査団を編成して緊急調査を行うとともに、これら調査に基づく調査報告を取まとめて公表し、災害発生原因や今後の対策等の検討に資する取組を行う等、砂防行政に多大な貢献をされた。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	しゃかいふくしほうじん しんとうむらしゃかいふくしきょうぎかい 社会福祉法人 榛東村社会福祉協議会
所 在 地	群馬県北群馬郡榛東村
代 表 者 (団体での職名)	会長 かない 金井 すけのり 佐則
功 績 の 概 要	社会福祉法人榛東村社会福祉協議会は、令和3年度に市町村の努力義務となった個別避難計画の作成について、永年の取り組みである「住民支え合いマップづくり」と連動して実施。計画作成は、地域支援者相互で話し合い、その後行政関係部署や地域包括支援センター等専門職の情報を取り入れ、実践的な計画づくりを行っている。災害から命を守り、安心して暮らし続けるため、最も大切な「顔の見える関係作りや地域ぐるみの支え合いの体制」を作り、地域課題の共有のほか、福祉避難所・福祉施設への速やかな避難が行えるよう避難者の共有を図り地域全体で支える仕組みを構築した。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	ちばけんさいがいたいさくこーでいねーたーもばら 千葉県災害対策コーディネーター茂原
所 在 地	千葉県茂原市
代 表 者 (団体での職名)	会長 すずき まさかず 鈴木 政一
功 績 の 概 要	千葉県災害対策コーディネーター茂原は、平時には自治会や自主防災組織、まちづくり協議会からの要請により、家具転倒防止器具の展示や説明等を行い、防災活動を通じ地域の防災力向上に努めている。また、NPO法人千葉県防災士会との連携を図りながら各種活動や研修会に参加しており、その活動は市内のみならず、県内各地で行われ、他市町村が開催する災害対策コーディネーター養成講座の支援活動等を行っており、高校生から高齢者まで幅広い年齢層に対し、講師やファシリテーターとして、防災普及活動に尽力している。 東日本大震災では、茂原市役所にて支援物資の仕分け作業、旭市のボランティアセンターにて被災者支援を行った。また、過去の茂原市豪雨（水害）災害発生時には、自身も被災されるなか、茂原市ボランティアセンターを開設し、被災者支援を行いつつ、駆け付けボランティアとして被災者支援を行った。 市主催の地域防災訓練や社会福祉協議会のボランティアセンター設置運営訓練にも継続的に参加しており、住民と行政のパイプ役を担うことを目的に掲げ地域防災力向上に貢献している。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名	こばやしはいつじしゅぼうさいぼうはんかい 小林ハイツ自主防災防犯会
所 在 地	奈良県生駒郡斑鳩町
代 表 者 (団体での職名)	代表 ほり すすむ 堀 進
功 績 の 概 要	小林ハイツ自主防災・防犯会は、通常の自主防災活動を精力的に行うだけではなく、町主催の防災訓練等へ積極的に参加しスキルアップに努め、コミュニティ助成事業等を活用し防災資機材の整備を計画的に進めるなど、他の自主防災組織の活動の模範となるものである。 令和4年度には、代表の堀氏が斑鳩町防災会議委員に任命され、町防災計画の見直しに貢献された。 また、活動は自治会内に留まるだけではなく、当組織の会員複数名が立上げメンバーの一員となり、斑鳩町内の自主防災組織間の連携強化を目的に「斑鳩町自主防災連絡会」を令和5年度に結成され、代表の堀氏が、同会の会長に就任されており、他の自主防災組織の活動の支援や、自主防災組織が未設立の自治会への設立支援等に尽力されている。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 称	おうじちょうぼうさいしねっとわーく 王寺町防災士ネットワーク
所 在 地	奈良県北葛城郡王寺町
代 表 者 (団体での職名)	会長 いけだ おきひと 池田 興人
功 績 の 概 要	王寺町防災士ネットワークは、「楽しく防災」をモットーに、防災士個人のスキルアップに限らず、防災士同士のネットワークを築き、平常時は町民への防災意識の啓発及び自主防災活動への活動支援で地域の防災力を向上させ、発災時は町と連携しながら避難所運営などに取り組むことを目的としている。 なお、現在は町内団体・防災会などを対象に、地区計画の策定促進や避難訓練の支援を行い、町の防災力の向上に貢献している。また、町の広報紙での広報活動を行い、町民の防災意欲の向上に貢献している。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	きもとちくぼうさいかい 木本地区防災会
所 在 地	和歌山県和歌山市
代 表 者 (団体での職名)	会長 とうない としゆき 東内 敏幸
功 績 の 概 要	木本地区防災会は、自主的な防災活動を行い、災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的として平成11年に発足し、継続的に地区における防災体制の整備に取り組んでいる。 また、地理情報システム（GIS）を活用した木本地区防災マップをweb上で公開し、それを活用した大規模避難訓練を実施するなど、地区の防災力及び地区住民の防災意識の向上につなげる試みを行い、安心・安全に暮らせるまちづくりに多大な貢献をしている。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 称 名	いちのみや・しもまちちくじしゅぼうさいかいれんごうかい 一宮・下町地区自主防災会連合会
所 在 地	徳島県徳島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 たけだ ひろゆき 竹田 廣行
功 績 の 概 要	一宮・下町地区自主防災会連合会は、平成25年7月23日にそれまで単独で活動していた地域内の13自主防災会が連携し連合会を設立した。結成以来、毎年、年2回以上の防災訓練、防災研修等を実施し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、地域防災力の向上に努めている。 毎年1月に実施する防災訓練では、一宮下町町づくり推進協議会と自主防災会連合会が一体となり、消防分団、地域住民、小中学生等多数が参加し、地域防災力の向上、連帯感の強化を図っている。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	ちーむつなくる チーム「つなくる」
所 在 地	北海道釧路市
代 表 者 (団体での職名)	顧問 ^{さかい} 境 ^{ちひろ} 智洋 学生代表 ^{たけだ} 武田 ^{かんた} 貫汰
功 績 の 概 要	チーム「つなくる」は、毎年、北海道内10～15校の学校を訪問し、津波実験装置を用いたり、防災寸劇を行ったりして、幼児や児童生徒に津波から身を守る方法を伝える出前防災授業を行っている。こうした防災教育を通じ、子どもたちの防災意識が向上していくことで、防災意識の強い町づくりに多大な貢献をしている。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	かぶしきがいしゃえふえむとくしま 株式会社エフエム徳島
所 在 地	徳島県徳島市
代 表 者 (団体での職名)	代表取締役社長 はたけやま けんいち 圃山 賢一
功 績 の 概 要	エフエム徳島は、ラジオ放送だけにとどまらず、あらゆるアプローチで防災啓発を実施しており、徳島県全体の防災力向上に寄与している。 2003年の「地震防災ハンドブック」の発行を皮切りに、番組や事業を通じて、地域住民の命と安全を守るため、災害リスクの周知や防災意識の向上に積極的に取り組んでいる。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	つつじがおかきたぼうさいきょうぎかい つつじが丘北防災協議会
所 在 地	東京都昭島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 てらい だいまく 寺井 大策
功 績 の 概 要	つつじが丘北防災協議会は、自治会とマンション管理組合で設置した組織で、各棟に「防災隣組」という共助組織を設け、平時は地域の見守りとして、また非常時には安否確認をスムーズに行う取組を、平成23年以降、継続して実施している。更に、「在宅避難」を前提とし、創意工夫を凝らした防災ルールや必要な資材を考案し、訓練により住民に徹底を図るという取り組みは、避難方法の多様化という課題に取り組む活動として先進的である。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	あるそっくかぶしきかいしゃ よこはまししゃ A L S O K株式会社横浜支社
所 在 地	神奈川県横浜市
代 表 者 (団体での職名)	横浜支社長 おおた けんすけ 太田 憲介
功 績 の 概 要	総合警備保障株式会社 横浜支社は、令和3年7月21日横浜市消防団協力事業所として認定を受け、積極的な消防団活動により令和6年3月21日総務省消防庁消防団協力事業所として認定を受けた。社内で先駆けとしての活動を実施したことが影響し、県内の2支社も消防団協力事業所として認定を受けた。 令和5年1月17日横浜市水道局と災害時給水所の運営協力に関する協定を締結し、横浜市みなとみらい地区4箇所の給水所運営合同訓練を毎年実施、災害発生に備えるなど地域防災力の向上に貢献している。 令和5年2月8日横浜市民共済生活協同組合と幹旋提携協定を締結し、組合員の安全・安心な生活づくりの支援を行っている。 令和5年2月23日横浜市建築局と高齢者向け借上型市営住宅において、緊急通報に関する取組を締結した（令和7年度継続中）。 令和6年3月16日横浜市住宅供給公社において災害備蓄品の納品と併せて、消費期限を管理するマネジメントサービスを開始した。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 称 名	わせだがつくじしゅぼうさいれんらくきょうぎかい 早稲田学区自主防災連絡協議会
所 在 地	広島県広島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 にしだ しづえ 西田 志都枝
功 績 の 概 要	早稲田学区自主防災連絡協議会は、平成12年の設立以来、自主防災活動を精力的に行っているところであるが、平成26年8月に広島市に甚大な被害をもたらした広島土砂災害を教訓として、地域防災力の向上を目指し、土砂災害防止に関する自主防災活動にも重点をおいて活動している。 特に、平成30年7月の西日本豪雨災害において、早稲田学区内でも土砂災害が発生したことを契機に、これまで積み重ねてきた活動のノウハウを活かし、地域における様々な課題を解決するための方針と具体的な活動内容を整理し、「“日常に＋（プラス）防災を”」をキャッチフレーズに、防災が特別なものではなく、日常の生活の一部となり、地域の文化として定着していくことを目指した「早稲田学区地区防災計画」を令和5年3月に作成した。 さらに、地区防災計画の実施ガイドである「わせだ防災プラン」や「わせだ防災マップ」などの活動用のツールを作成し、広報誌や地域イベントでの情報発信、各種防災訓練、住民参加型ワークショップの実施等により、地域全体で防災まちづくりに取り組んでいる。 また、自主防災活動を通じて、地域の災害特性である土砂災害に対する警戒避難体制を整備するとともに、地域住民の防災意識を向上させ、次世代を担う防災リーダーの育成にも力を注いでおり、さらには、警察・医師会・メディア・民間企業等の多方面の機関・団体とネットワークを構築することにより、土砂災害を始めとした災害に強いまちづくりを推し進める等、地域防災力の向上に貢献された。